

心理学の基礎 <1>

第8回 性格

担当／浜村 俊傑

本日の授業内容

1. 前回の復習
2. 本日の目的と到達目標
3. 性格（パーソナリティ）について
4. 精神分析・新フロイト派理論
5. ヒューマニスティック理論

本日の目的と到達目標

目的

- ◆性格を理解するための理論を学ぶ
- ◆性格を把握，測定するための方法を学び，体験する

到達目標

- ◆パーソナリティの種類を説明できる
- ◆精神分析や人間性理論のパーソナリティの捉え方や測り方を説明できる

性格（パーソナリティ）について

- ◆2回の講義で「パーソナリティ心理学」について学んでいきます
- ◆全体の流れ
 - 歴史的に意義がある理論→現代の考え

パーソナリティ（personality）とは？

- ◆個人の思考，感情，行為の特徴的パターン（Myers, 2015）
- ◆日本語では人格・性格・個性などが区別せず使われていることが多い
 - 授業でも区別せず使います

性格（パーソナリティ）について

人格 = personality の訳語

- ◆ 語源はラテン語の「ペルソナ（仮面）」。（劇における役割）
- ◆ 生まれた後に社会的に形成された役割のパターン

性格 = character の訳語

- ◆ 語源はギリシャ語の「刻みつけられたもの」
- ◆ 生まれながら備わっている認知・行動のパターン

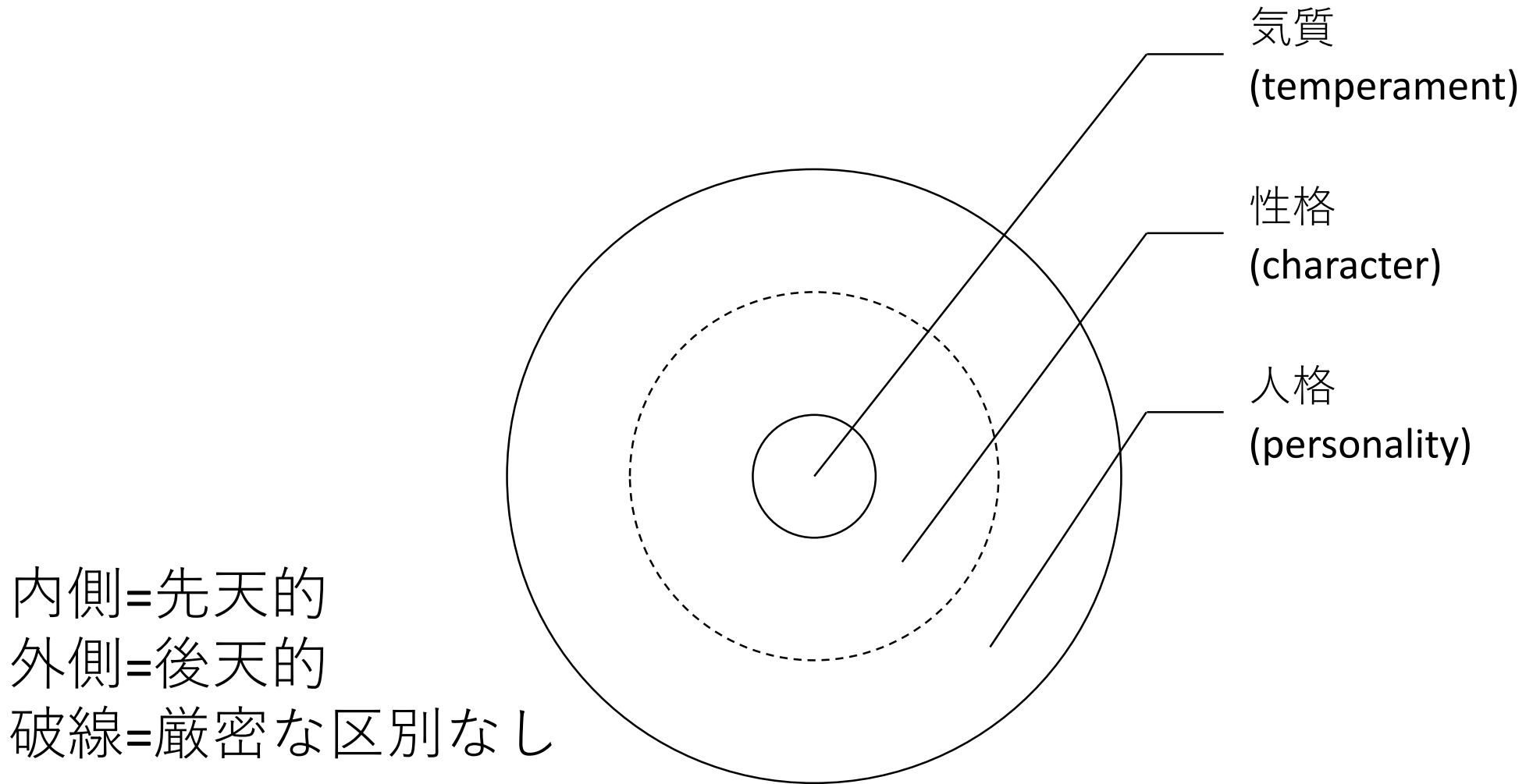
気質 = temperament の訳語

- ◆ 生まれながらに示す感情・気分のパターン
- ◆ 例／かっとなりやすい

個性 = individuality の訳語

- ◆ 他者との違いを強調する言葉

性格（パーソナリティ）について



（宮城，1960と相場，1963を無藤ら，2018より引用）

性格（パーソナリティ）について

◆パーソナリティの捉え方は様々

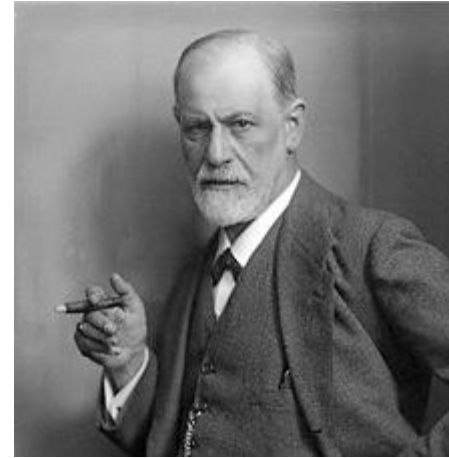
◆以下の理論を学びます

理論	代表的な理論家	キーワード
精神分析	フロイト	無意識, 決定論
人間性理論	マズロー, ロジャース	自己実現, 人間の可能性
類型論	ユング	タイプ別
特性説	アイゼンク	次元別
社会的認知理論	バンデューラ	環境との相互作用

精神分析・新フロイト派理論

代表人物①

- ◆ジークムント・フロイト (Sigmund Freud, 1856-1939)
- ◆オーストリア出身の精神科医
- ◆自身の理論を**精神分析(psychoanalysis)**と呼んだ
- ◆神経学では説明がつかない疾患をもつ患者を通して、無意識の重要性を発見する
- ◆人間の本能(instinct)は性と攻撃



https://en.wikipedia.org/wiki/Sigmund_Freud

精神分析・新フロイト派理論

精神分析によるパーソナリティの捉え方

- ◆性的・攻撃的衝動と抑制の葛藤を解消する努力
- ◆一定の段階を経ると変わらない（決定論）
- ◆無意識(unconscious), 前意識(preconscious), 意識(conscious)が存在している
- ◆我々の意識的気づきは氷山の一角（次のスライド）
- ◆「夢は無意識への王道」と考えた

精神分析・新フロイト派理論

精神分析によるパーソナリティの構造

1. イド(id, es)

- ◆生存, 繁殖, 攻撃の動因を充実するエネルギー (快感原則と呼ばれる)
- ◆将来より今 (例/赤ん坊が泣く)

2. 自我(ego, ich)

- ◆イドを満たすため現実的な方法をとる
- ◆例/兄弟喧嘩で手を上げずに, 親に伝える

3. 超自我(superego, uber-ich)

- ◆理想の声 (~べき) で罪悪感と恥を与える
- ◆例/見つからない場所でも万引きをしない (罪悪感を感じるので)



<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%84%A1%E6%84%8F%E8%AD%98>

精神分析・新フロイト派理論

精神分析によるパーソナリティの発達

- ◆12歳ごろで性格は固定される
- ◆それまでいくつかの段階が存在する。心理・性的発達段階（psychosexual stage）と呼ばれている

段階	時期	快楽の場所
口唇期	0～18カ月	口（おしゃぶり）
肛門期	18～36カ月	腸と膀胱を空にすること
男根期	3～6歳	性器
潜在期	6歳～思春期	性的感情の休眠段階
性器期	思春期以降	性的興味 of 成熟

- ◆ある段階で快楽の固定→パーソナリティに影響

精神分析・新フロイト派理論

防衛規制 (defense mechanism)

- ◆人は性的・攻撃的衝動をもっているが社会の一員として制御しないといけない
- ◆無意識に現実を歪め、不安を軽減する自我の防衛方法
- ◆本能を抑圧することで現れる行動パターン
- ◆抑圧のすべてが防衛規制の基礎になっているとフロイトは考えた

精神分析・新フロイト派理論

防衛機制の例

種類	説明	例
否認	痛々しい現実を拒むこと	相手の不倫を受け入れない
退化	より幼い心理・性的発達段階へと戻ること	男の子が登校時におしゃぶりを する
投影	自分の認めたくない気持ちを他人のものとみなすこと	嫌っているのは自分ではなく 相手の方だ
置き換え	性的・攻撃的な衝動を、より容認しやすいあるいは脅威の少ないものに置き換えること	母親に叱られた後、自分のぬいぐるみやペットを蹴る
合理化	自己正当化できる理由を与えること	アルコール依存の人が「付き合いで飲んでする」という
反動形成	容認できないものを正反対のものにひっくり返すこと	怒りを我慢、過剰に友好的な態度をとる

精神分析・新フロイト派理論

新フロイト（精神分析）派

◆フロイトの考えを発展したり批判した人たち
代表人物②

カール・ユング（Carl Jung, 1875-1961）

- ◆自我(ego)が意識の中心
- ◆個人の無意識と集合的無意識がある
- ◆集合的無意識→人類史から受け継いだ普遍の体験に由来するイメージ
- ◆例／母親を通して慈愛の象徴をもつ

精神分析・新フロイト派理論

ユングのパーソナリティの捉え方

◆態度=心的エネルギーが向かう場所

- 外向型(外の世界へ)⇔内向型 (自己へ)
- 外向型の例／開放的, 社交的, 主張的, 他者への関心
- 内向型の例／控えめ, シャイ, 自己の考えや感情への関心

◆心理機能

- 感覚⇔直観 (非合理的, 経験受け入れ方)
- 思考⇔感情 (合理的, 経験の評価の土台)

◆2つの態度×4つの心理的機能=8種類のパーソナリティの分類

◆類型論的な考え方 (タイプ別に分かれる)

精神分析・新フロイト派理論

代表人物③

アルフレッド・アドラー(Alfred Adler, 1870-1937)

- ◆無意識や性的欲求ではなく社会的緊張状態の方が大事
- ◆劣等コンプレックス故に優位性と力を人は求める

アドラーのパーソナリティの捉え方

- ◆人生に対する問題への取り組み方に影響される
- 1. 支配型(dominant type)→社会的気づきが少なく支配的態度を取り勝ち
- 2. 要求型(getting type)→他者に依存しがち
- 3. 回避型(avoidant type)→人生における問題を避けがち
- 4. 社会的有用型(socially useful type)→他者と協力して欲求を満たす

精神分析・新フロイト派理論

アドラーのパーソナリティの捉え方（続き）

◆出生順位（強く固執はしなかった）

- 一番目＝過去に囚われがち，将来に対して悲観的，良心的，規律と権威を確保したい，弟，妹より知的に成熟しやすい
- 二番目＝平和的，将来に対して楽観的，競争的（一番目にかなわないと感じたら諦めやすくなる）
- 最年少＝成績優秀者，依存的
- 一人っ子＝認められないと落ち込みがち

◆アドラーは強く固執しなかったが類型論としてパーソナリティを捉えた

精神分析・新フロイト派理論

現代の精神力動理論

- ◆性がパーソナリティの基盤だとは考えていない
- ◆イドや肛門期などの言葉は使わない
- ◆我々の精神生活の多くは無意識
- ◆幼少期にパーソナリティやアタッチメントが形成される

精神分析・新フロイト派理論

パーソナリティの査定の仕方

- ◆曖昧な図版や言葉を示し，対象者が自由な反応を行い，検査者が解釈する
- ◆長所／対象者が反応を操作しにくい。対象者の様々な心理データが得られる
- ◆短所／時間がかかる。対象者に負荷がかかりやすい。解釈が困難

精神分析・新フロイト派理論

パーソナリティの査定の仕方

◆投影法①ロールシャッハ・テスト

- インクの染みが何に見えるかを記述してもらう

◆投影法②主題統覚検査(TAT)

- ある場面が描かれた絵に対して自由に語る

◆投影法③バウムテスト

- 木を書く

ロールシャッハ・テスト



https://en.wikipedia.org/wiki/Rorschach_test

主題統覚検査(TAT)



<https://sites.google.com/site/limbicsystembytaylorgallman/projective-tests-jin-lee/tat>

人間性(ヒューマニスティック)理論

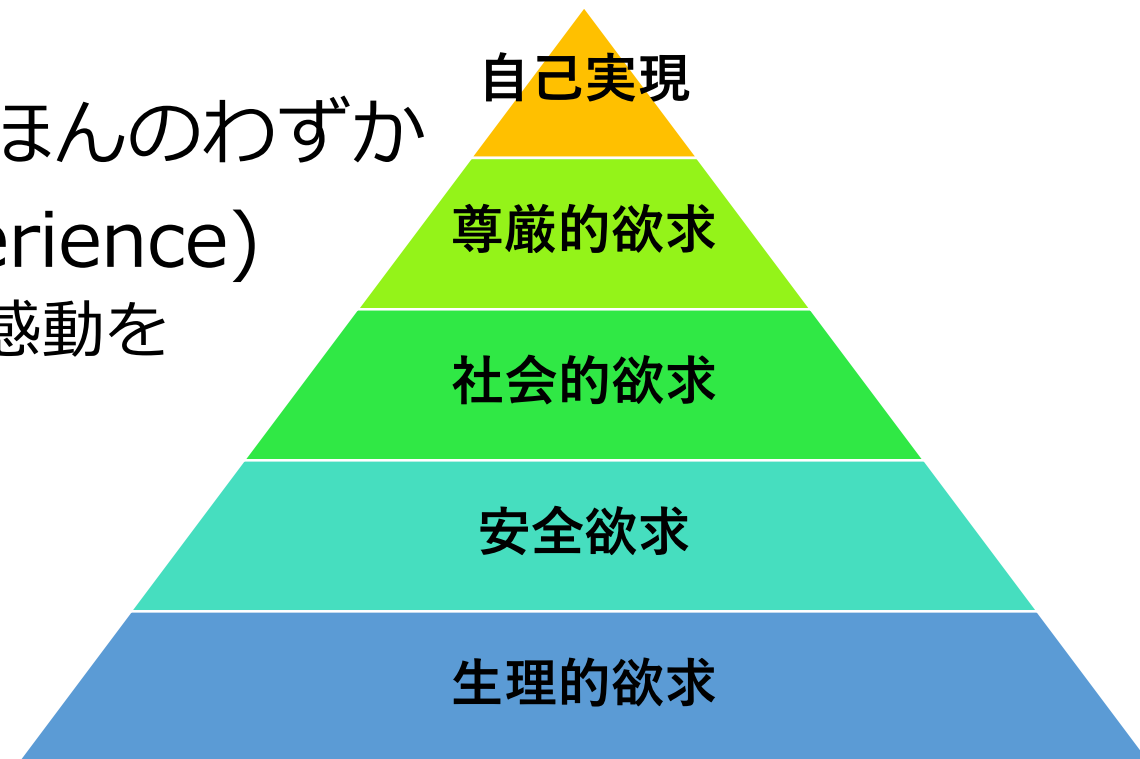
人間性理論(Humanistic theory)

- ◆ 1960年-1970年ごろに主に米国で発展した理論
- ◆ 行動主義と精神分析への批判
 - 人間の本質を狭めすぎている
- ◆ 人間性理論の焦点
 - 人間の強み, 美德
 - 人間の可能性や最善の状態
- ◆ 人間性理論の特徴
 - 考えが主観的 (科学性は弱い)
 - ナイーブで楽観的

人間性(ヒューマニスティック)理論

エイブラハム・マズロー (Abraham Maslow)

- ◆人は欲求の階層構造によって動機づけられている
- ◆5段階欲求を提唱
- ◆自己実現に至る人はほんのわずか
- ◆至高体験(peak experience)
 - 平凡な意識を超越し感動を覚えた体験



人間性(ヒューマニスティック)理論

カール・ロジャーズ(Carl Rogers)

- ◆基本的に人間は善意の人
- ◆逆境にくじけない限り, みな大樹へと成長・達成できる
- ◆成長を促進する条件
 - 真実性／うわべを取り払い, 透明で, 自己開示的
 - 受容／無条件の肯定的配慮をする
 - 共感／他者の感情を共有・模倣し, その意味を考える
- ◆自己概念(self-concept)／「自分は何者か？」
 - ポジティブ→ポジティブに行動し世界を把握
 - ネガティブ→理想自己とかけ離れて不満, 不幸に感じる

人間性(ヒューマニスティック)理論

パーソナリティの査定の仕方

- ◆**理想の自分と現実の自分**の記述（質問紙の活用）
- ◆二つが近いほど自己概念がポジティブ
- ◆質問紙など標準化された方法は「人を人と思わない」
- ◆面接や会話での査定

まとめ

パーソナリティ

◆個人の思考，感情，行為の特徴的パターン

精神分析

◆フロイトの理論

- 人のパーソナリティには無意識が働いている
- （性的・攻撃的）衝動と抑制の葛藤への解消
- 幼少期の体験でパーソナリティが決まる

◆ユングの理論

- 2つの姿勢と4つの機能からパーソナリティが分類される

◆アドラーの理論

- 人生の問題に対する捉え方や出生順位の影響がある

まとめ

人間性理論

- ◆人は最善の可能性があり、それに向かっている
- ◆マズローによるとパーソナリティは5段階欲求の影響を受ける
- ◆ロジャースによるとパーソナリティは成長を促進する条件や自己概念の影響を受ける

本日の目的と到達目標

目的

- ◆性格を理解するための理論を学ぶ
- ◆性格を把握，測定するための方法を学び，体験する

到達目標

- ◆パーソナリティの種類を説明できる
- ◆精神分析や人間性理論のパーソナリティの捉え方や測り方を説明できる

引用文献

Myers, D. (2015). Psychology (10th Ed). New York: Worth Publishers

(マイヤー, D.G. 村上郁也 (監訳) カラー版 マイヤーズ心理学.西村書店.)

無藤 隆・森 敏昭・遠藤 由美^{北岡} (2018). 心理学 Psychology; Science of Heart and Mind (新版) 有斐閣

Schultz, D. P., & Schultz, S. E. (2005). Theories of personality (8th Ed). Belmont, CA: Thomson Wadsworth